

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書

研究開発課題名	胆汁からのヒト腫瘍細胞3次元培養技術の確立
代表機関名	千葉県がんセンター
研究開発代表者名	筆宝 義隆
全研究開発期間	平成29年度～令和元年度

1. 研究開発成果

事後報告書（下URL）参照

<https://www.amed.go.jp/content/000066006.pdf>

2. 総合評価

- ・ 優れている。

【評価コメント】

本課題は、進行胆膵がんに伴う胆管閉塞に対する内視鏡治療時に採取される胆汁残余検体を用い、検体処理・培養法の最適化を進めることにより、3次元培養技術（オルガノイド樹立方法）を確立した。本技術は、侵襲を伴う生検と比較し、患者への負担が少ない余剰胆汁検体を用い、創薬における前臨床モデルとなる創薬基盤技術となるだけでなく、2nd-line療法に向けた治療効果予測への可能性を示しており、分子標的薬コンパニオン診断の材料として展開することも期待できる。

今後、本培養技術は完成までには達せられていないことから、さらなる症例の積み上げを行い、技術の精度向上ならびに実用化に向けた標準化検討を行って頂きたい。

以上